
江藤　東子さん
今城地区民生委員

みんなが住む町は　みんなでつくりましょう

あの恐ろしい地震から１年が経ちましたが、たびたび地震があることで、当時のことを思い出し、防災の大切さを改めて実感しています。今城地区の民生委員として、震災当初もヘルメットを被り、区長と一緒に一軒一軒の安否を確認しました。その時は、無意識に自分の身の回りのことを後まわしにして、とにかく地域の人が無事でいるかを考えて行動しました。車中泊を３、４日を続けた後に、町外の体育館へ避難。現在は、仮設住宅に入居しています。

民生委員として大事にしていることは、話を聞いて、寄り添うことです。余震が落ち着き、５月になると担当区域を一斉に訪問しました。不在ならメモを入れ、在宅の方には、支援物資を届けに行きました。支援物資を持っていくことは、ただのきっかけづくり。本当の目的は“話すこと”。話すことで、「1人じゃないんだ！」という気持ちにもなると思います。大変な仕事ですけど、感謝の言葉をいただいたり、頼りにされるとやりがいを感じますし、困っている人の力になれるならという強い思いがあるから頑張れるのだと思います。

復興のためには、自分の目の前のことだけでなく、視野を広くもつことが重要だと思います。家を再建するにしても、震災以前より、住みやすくするようにするにはどうしたらよいか、どんな地域にしたいか、今までにないようなものをみんなで考える必要があります。今回の震災で失ったものもたくさんありますが、きつい時、つらい時、人と人とのつながりで“絆”というものを得ることができました。これからは自分の殻に閉じ込もらず、たくさんの人と話し、私たちの町の復興のために頑張りましょう。



自分たちでつくる―

毎週金曜日に開催される今城サロンの後に、入居者だけで茶話会をすることになりました。江藤民生委員（今城）を中心に会計担当や買出し担当などの各担当を決め、月に２回開催する予定です。「せっかく集まるなら」「もっと気楽に話せる場所」ということがあり、たくさん話し合い、笑って、楽しみを増やすのが目的です。現在、仮設住宅の中でも、自分たちで様々な活動を計画し、実行するコミュニティが増えているところです。

▼うちわの風でボールを高得点に誘うゲーム
白熱したゲームが繰り広げられました。





これからすべきこと―

今城仮設住宅―毎週金曜日に地域支え合いセンターを中心にサロンが開催される。サロンの中で、隣の人と会話しながら、楽しそうにマッサージを行っている様子。